シリーズ

いろんな 和尚さん

脱窒菌和尚 さんの巻

里山に、どくを持った硝酸性窒素がいました。

どくは村のみんなを弱らせるので、硝酸性窒素は嫌われていました。

そんな嫌われ者の硝酸性窒素でしたが、

いつかはみんなと仲良くなりたいと考えていました。

しかし、近づけばみんなを弱らせると思い、

さみしく牛の糞の中でじっとして毎日を過ごしていました。

そんなある日、脱窒菌和尚さんが村を通りかかりました。
脱窒菌和尚さんは、困った人たちを助ける旅の途中でした。

硝酸性窒素は、脱窒菌和尚さんに、
「みんなと仲良くなりたいです。オラを助けてくれませんか」
と必死に頼み込みました。

脱窒菌和尚さんは、何とかして硝酸性窒素を
助けてやりたいと考えました。
そこで、昔から何にでも効くと言われている、
腐植物質を硝酸性窒素に振りまきました。

すると、粉の中からたくさんの電子があらわれて、
あっという間に硝酸性窒素を包み込みました。

電子のおかげで、硝酸性窒素の体から
みるみるどくが消えました。
そして、無毒の窒素に生まれ変わりました。

無毒な窒素は、みんなを弱らせない
自分の姿が大いに気に入りました。

そして、村のみんなと仲良く暮らしました。
めでたし、めでたし。

おしまい